土砂災害の爪痕

ASSIST AFRICA

アシストアフリカ!

アフリカは今、世界でも最大規模の国内避難民と難民を抱える地域です。「アフリカ最大の難民危機」と指摘されるほどの事態にもかかわらず、その実情が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られています。日本から約1万km離れた大陸で、何が起きているのか。タウトク編集部では、南スーダン、ケニア、ウガンダ、シエラレオネで活動するNGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動を続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、アフリカが抱える問題を少しずつひもとき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊(350円)購入いただくにあたり、その約1%である3円をアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起こっているいろんな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

PWJの携帯サイトはこちら!

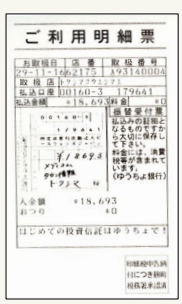
世界各地で支援活動を続けるスタッフからの「現地活動ルポ」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました!
左のQRコードからアクセスしてみて!
http://www.peace-winds.org/m/

タウトクでは毎号、
アフリカの国内避難民・難民支援事業へ
送金した金額=タウトクの販売部数×3円を
読者のみなさんにお知らせします。

タウトク10月号の販売部数

6,231部×3円=18,693円

を支援金としてPWJを通じ南スーダンの国内避難民・難民支援事業に送りました。



peace winds JAPAN

月刊タウン情報トクシマ

タウトク

medicomm inc
株式会社メディコム
月刊タウン情報トクシマ編集部

ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

シエラレオネ中心部で豪雨被害 衛生環境の向上を目指す支援開始

皆さんは、シエラレオネという国をご存知でしょうか? 西アフリカの大西洋岸にあり、ギニアやリベリアと隣接する共和制の国です。人口は約660万人。アフリカ圏でみると、ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)が2017年11月現在、支援活動を行なっているケニアやウガンダ、南スーダンと比べて小さな国です。シエラレオネは、1808年に奴隷制度から解放された黒人たちの移住地として、イギリスの植民地となった後、1961年に独立を果たしました。ところが、独立後もクーデターや長期にわたる独裁政治、1991年から1999年まで続いた内戦、隣国リベリアでの内戦などによって、大規模な難民が発生しました。 当時、私自身はまだPWJの一員ではありませんでしたが、設立からまだ数年しか経っていなかったPWJは2001年から2007年までの間、シエラレオネ国内で難民キャンプの運営にあたっていました。ピーク時は、1万人以上の難民を支援している状況だったといいます。

あれから10年余り。今年8月半ば、豪雨がシエラレオネの首都フリータウンを襲いました。フリータウンの山間の地域で大規模な地滑りが発生し、下流にあった集落は洪水や土砂崩れによって、多くの世帯が家屋の崩壊や浸水被害に遭いました。私は9月初旬、PWJの初期調査チームの一人としてシエラレオネに入りました。

地滑りの現場に到着した時、最初に目に飛び込んできたのは、ごっそりとえぐられた大きな山。すでに雨はやんでいましたが、大雨や土砂崩れの爪痕を目の当たりにし、身震いしました。さらに、カニンゴ地区という下流の地域では、水源が土砂などの影響で汚染され、住民は清潔な水を確保できない状況となっています。周辺に住むある住民の方は「共同で使っている井戸に汚れた水が流れ込んでしまったから飲んだり、生活水として使ったりすることができなくなった。支援団体からもらえる水だけが頼りです」と語っていました。

現地のコミュニティヘルスセンターも、洪水被害で清潔な衛生環境を保てなくなっていました。また、避難所となっていた学校には、家屋が全壊したり、屋内に土砂が流れ込んだりして住めなくなった多くの人が身を寄せていましたが、ここの水源も被害を受けていました。こうした現状から、PWJは衛生環境の向上が急務だと判断しました。今後、洪水被害が大きかったカニンゴ地区の住民に対し、学校やヘルスセンターにおいて支援を展開していく方針です。衛生環境の悪化は、感染症の流行などを招く恐れもあります。一刻も早く、被災した人たちの安全を確保できるよう活動に取り組みます。

シエラレオネ事業担当 ポーマン真理子

橋が流されたため歩いて川を渡る住民

避難所で聞き取り調査をするPWJスタッフたち

避難所の子供達

*本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金や個人・法人のみなさまによる寄付金により実施しています。